

ユニトラ、新造VLGCにバラスト装置

ユニトラ海運は昨年6月、シンガポール法人クミアイナビゲーション (Kumiai Navigation <Pte> Ltd.) 向けに川崎重工業が坂出工場で作造する大型LPG船 (VLGC) に、無錫藍天電子有限公司が設計・製造するバラスト水処理装置「BSKY」を受注し、来年納入することを明らかにした。

ユニトラ海運は、日本における「BSKY」の販売代理店契約を12年に締結。これまでに新造船3隻を含む約20隻に同装置を受注しているが、新造のVLGC向けでは初めての受注となる。ユニトラ海運の乾孝宏社長は「当社で同型のVLGCにレトロフィットで搭載した経験があり、工事から約2年が経過した今も順調に動いていると聞いている。この実績が採用される決め手の1つになったのではないかと話す。

「BSKY」は、特許技術であるハイドロサイクロン (液体遠心分

離機) を一次処理に用いて水中生物をLサイズはほぼ100%、Sサイズは90%以上分離する。これに加えて超音波と紫外線 (UV) 処理を行うことで確実に生物を殺滅する。フィルターや薬剤を使わないため、基本的には船員によるメンテナンスが不要、安全でランニング

コストが低いことが特長だ。乾社長は「同方式を用いれば、(一部の方式で懸念されている) バラストパイプやタンクの腐食は起こらない。また、泥などを含んだ濁水の処理時にも力を発揮する」と話した。加えて、「配置の柔軟性が高く、レトロフィットの際は船体に作業口を開ける必要もない。特に小型船やタンカー、ケミカル船などでより有利になる」。製造元の無錫藍天電子有限公司では現在、



「BSKY」

3D画像を用いた搭載シミュレーションの撮影と概念設計サービスを無料で提供している。

「BSKY」は毎時100～6000 m³の容量に対応し、全世界で累計324基を受注、203基を搭載済みだ。米国沿岸警備隊 (USCG) の型式承認取得に向けた試験も進めており、来月には認定独立試験機関 (IL) で陸上試験を開始し、年内の型式承認取得を目指す。